

3月20日地震発生後の 福島第一原子力発電所の状況について（続報）

< 参 考 資 料 >
2021年3月26日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

【地震の状況】

- ・ 発生日時：3月20日午後6時9分頃
- ・ 震源地：宮城県沖
- ・ 6号機原子炉建屋基礎マット加速度（速報値）：（水平）38.0ガル （垂直）30.7ガル
- ・ 立地町震度：震度5弱（大熊町、双葉町）

【地震直後の発電所の状況】

- ・ 使用済燃料プール冷却設備、原子炉注水設備→継続
- ・ 窒素ガス分離設備運転→問題なく運転を継続中（地震前より(C)は非待機）
- ・ 滞留水移送装置・水処理設備→手動停止、滞留水移送装置は点検後に3/21に運転再開、
他は3/22以降に点検予定
- ・ 5号機使用済燃料プール、6号機使用済燃料プール、共用プール→異常なし、スロッシングなし
- ・ 1～6号機設備プラントパラメータ、滞留水移送設備・水処理設備パラメータ→有意な変動なし
- ・ モニタリングポスト、敷地境界及び構内ダストモニタ、構内線量率表示器→有意な変動なし
- ・ 構内排水路モニタ、海水放射線モニタ指示値→有意な変動なし
- ・ コンテナ等廃棄物保管エリア→2/13地震で一部に転倒及び傾きが発生した瓦礫保管エリア一時保管施設（AAエリア）の瓦礫コンテナについては新たな異常なしを確認（3/21）

<以上、3月22日お知らせ済み>

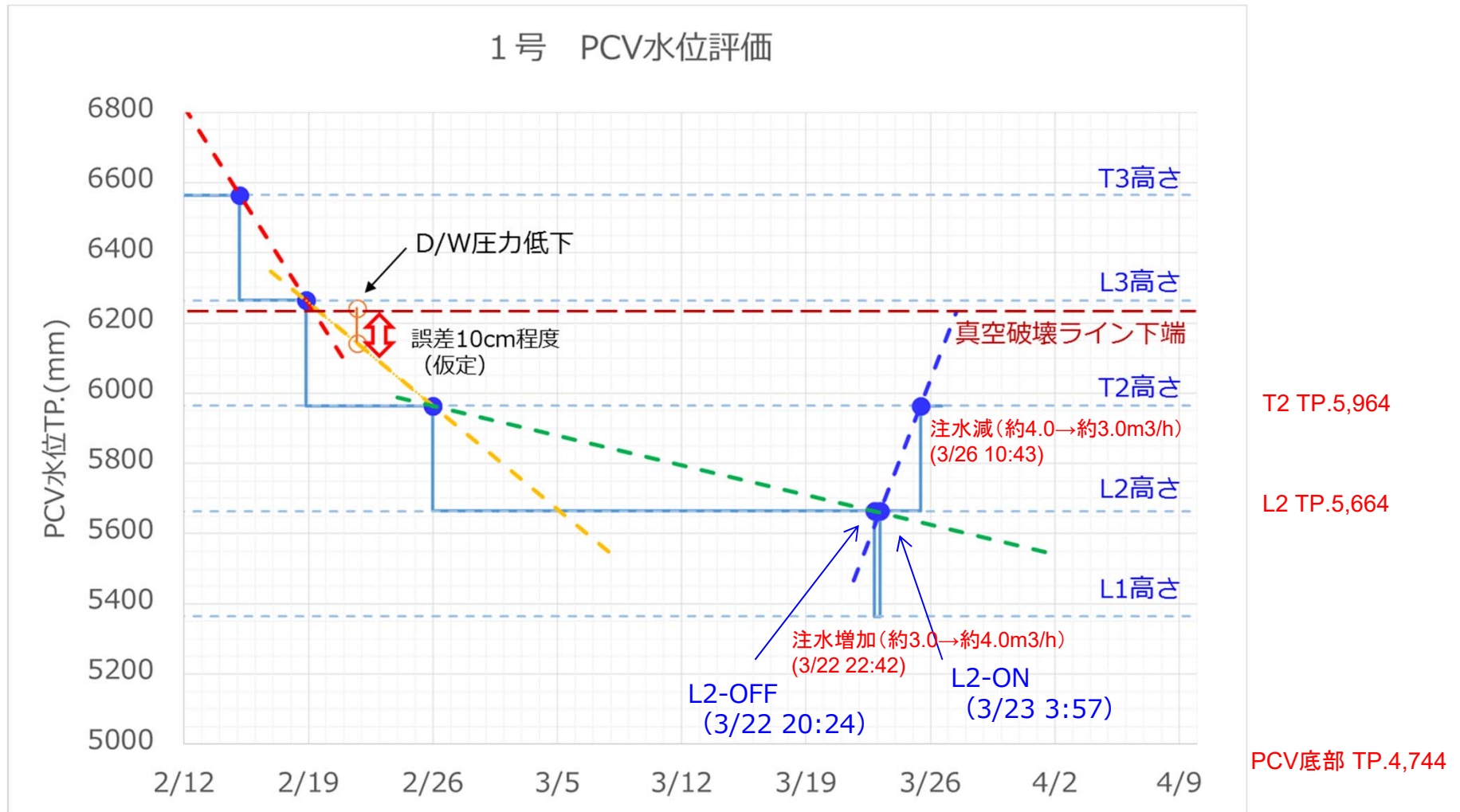
現時点（3月26日）において、設備の異常および水漏れ等の異常は確認されておられません。
引き続き状況を注視し、異常が確認された場合には速やかにお知らせします。

地震発生後の状況（続報）

1号機原子炉格納容器内水位について

- 1号機原子炉格納容器(PCV)内水位は、3月20日時点で温度計T2 (T.P.+5,964mm) と水位計L2 (T.P.+5,664mm) の設置位置の間にある。
(原子炉格納容器底部はT.P.+4,744mm)
※地震発生時に1号機原子炉格納容器水位計L2の接点が一時的（数秒程度）に離れるも、すぐに復帰していることを確認。一時的な事象であり、原子炉格納容器水位が低下したのではなく、地震に伴う水面の揺れの影響によるものと考えている。
<以上、3月22日お知らせ済み>
- 3月22日、PCV水位が水位計L2を下回ったことから、同日、PCV水位を安定的に監視する観点から注水量の増加（約3.0m³/h→約4.0m³/h）操作を行った。その結果、3月23日にL2を上回っている。
- 1号機PCV水位が温度計T2の設置位置を上回ったことに伴い、本日(3月26日)午前10時43分、原子炉注水量の減少（4.0m³/h→3.0m³/h）操作を行った。
- 安定してPCV水位の監視および水位制御ができることを確認するため、当面の間は、必要に応じて注水量増加を行い、L2～T2の範囲でPCV水位の変化の状況を確認する。

地震発生後の状況 (続報)



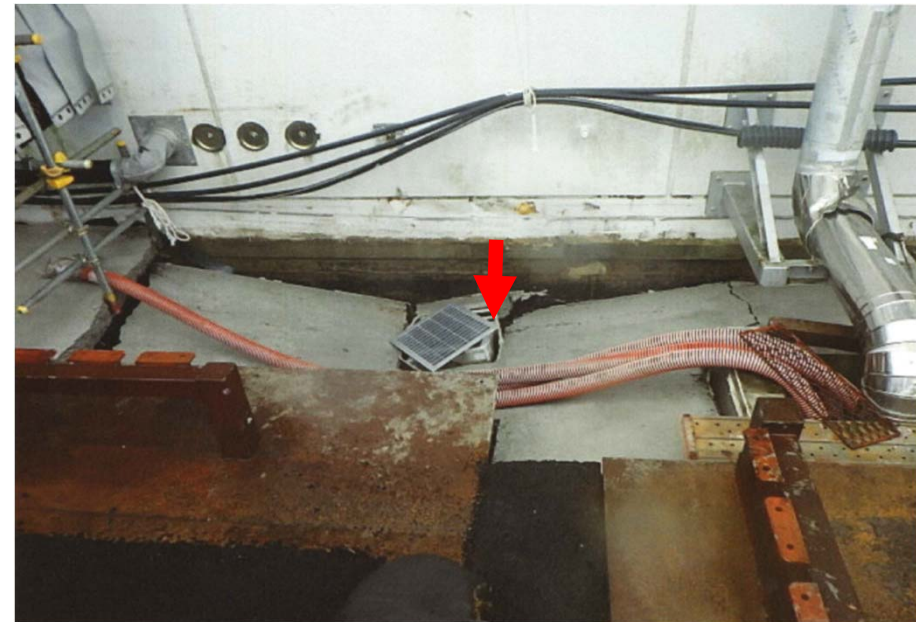
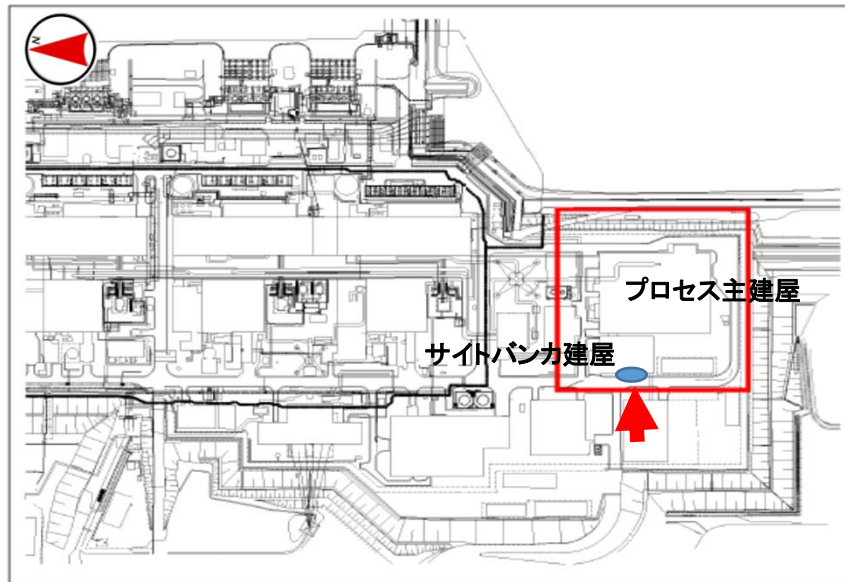
地震発生後の状況

サイトバンカ建屋西側の沈下状況

発生（確認時刻）：3月21日午前11時頃

概要：現場パトロールにおいて、サイトバンカ建屋西側の建屋付近の地盤沈下を確認。

2月13日の地震にて若干の沈み傾向が見られた箇所であったが、今回の沈下で建屋の周囲のコンクリートフェーシングが割れた状態となった。周辺の配管類に異常は無く、当該箇所については、今後修理予定。また、安全確保の観点から当該エリアについては、立ち入り制限を実施。



<以上、3月22日お知らせ済み>

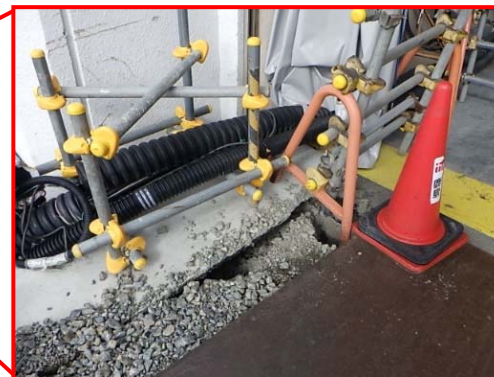
地震発生後の状況（続報）

サイトバンカ建屋周辺の状況と今後の作業予定について

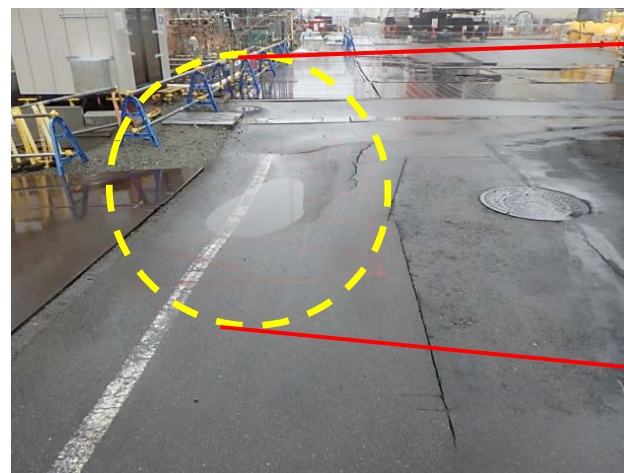
- ・2月13日や3月20日の地震、およびその後の降雨に伴い、以下の変化が見られている状況
- ・サイトバンカ建屋大物搬入口鉄板下の空洞については、降雨の影響で進展が見られるため、3月29日以降、修理をする予定
- ・その他の箇所についても、状態を詳細確認のうえ、今後修理する予定（現状で廃炉作業には支障なし）



① サイトバンカ建屋西側道路付近



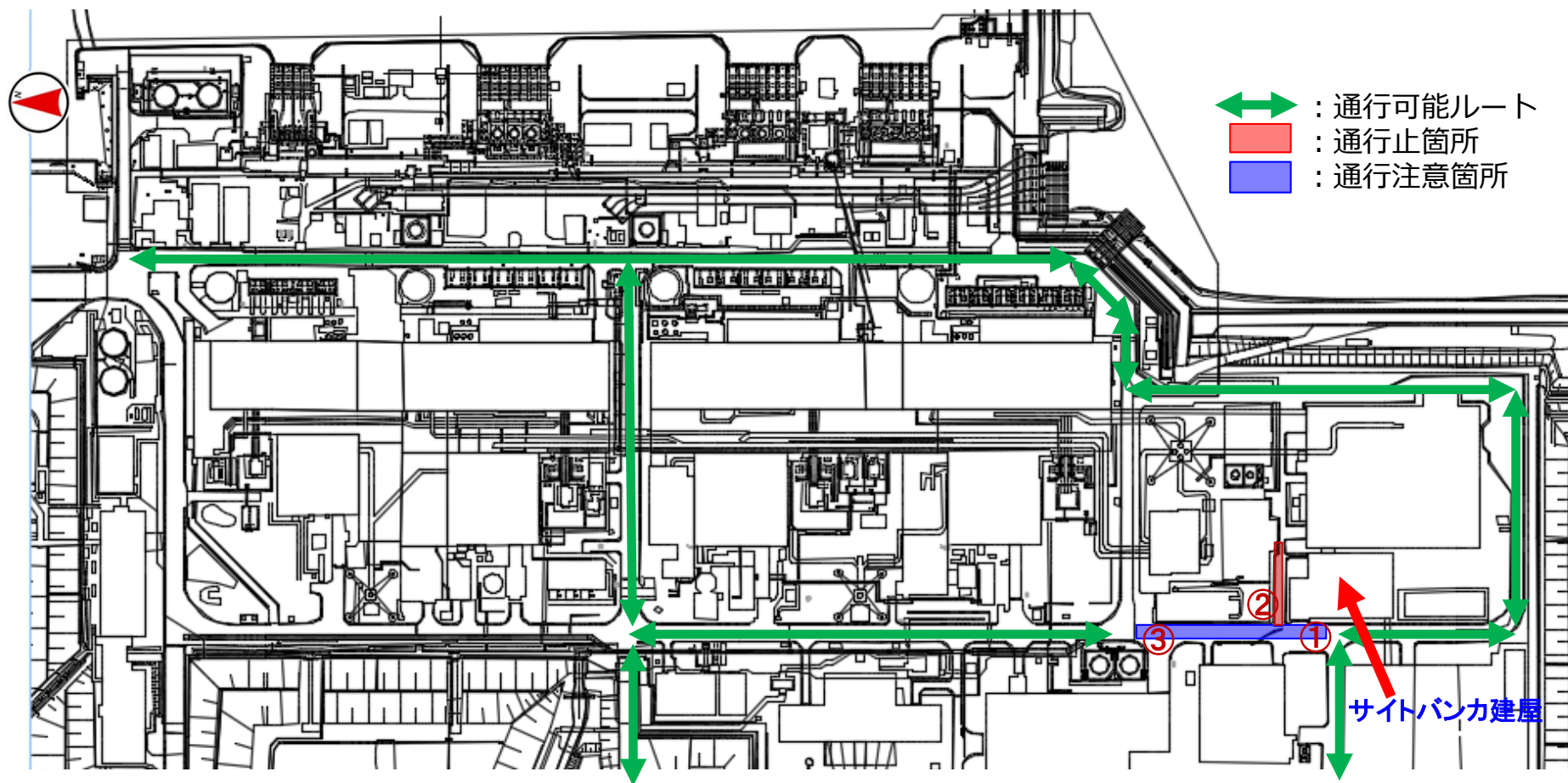
② サイトバンカ建屋北側道路



③ 共用プール東側大物搬入口前



現在の道路規制について



地震発生後の状況（続報）

3号機燃料取出し用カバーエリア放射線モニタ（ch.1）ヒューズ切れの状況

発生（確認時刻）：3月20日午後6時12分頃（機器故障警報 発生時刻）

概要：当社社員が3号機燃料取出し用カバーエリア放射線モニタ（ch.1）の「機器故障」警報の発生を確認。3号機オペレーティングフロアにおいて作業は行っていなかったこと、および、同モニタ（Ch.2）に有意な変動がないことを踏まえ、地震発生翌日（3月21日）から現場確認を実施。3月21日、モニタ側の現場確認によりモニタ側には異常はなく、伝送異常であること確認。3月22日、検出器側の現場確認により当該モニタの検出器用の光伝送器のヒューズが切れていることを確認し、同日、当該ヒューズを交換し、当該モニタが復旧したことを確認。



図1.エリア放射線モニタ検出器収納箱
(地震前に撮影、丸部分に当該ヒューズ有り)



図2.当該ヒューズ（矢印部分に切れ）